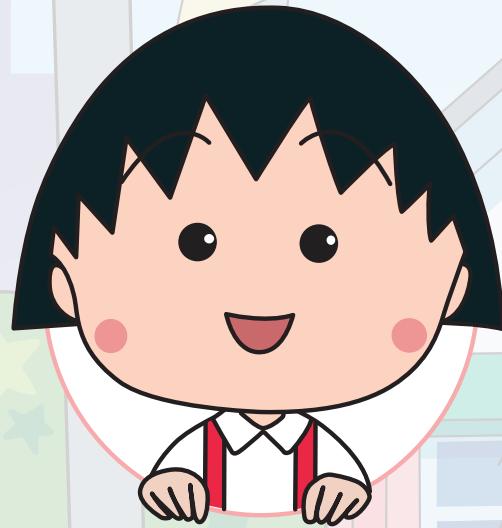


株式会社ミツウロコグループホールディングス 証券コード:8131

第109期 株主通信

2017年4月1日～2017年9月30日(中間期)



株式会社ミツウロコグループホールディングス

〒104-0031

東京都中央区京橋三丁目1番1号

TEL:03-3275-6300(代表) FAX:03-3275-6350

mail:ir-sec8131@mitsuuroko.co.jp

●本書では、視認性、判読性に優れた
ユニバーサルデザインフォントを使用しています。



ちびまる子ちゃん 「ちびまる子ちゃん」(フジテレビ系列)で
©さくらプロダクション/日本アニメーション ミツウロコ企業広告CMオンエア中!





DATAで見るミツウロコグループ

売上高

2,057億円

第108期連結 2016年4月1日～2017年3月31日

経常利益

47億円

第108期連結 2016年4月1日～2017年3月31日

設立

1926年(創業1886年)

従業員数

1,846名

2017年9月末

エネルギー事業店舗数

79店舗

2017年9月末

フード&プロビジョンズ事業店舗数

379店舗

2017年9月末

LPガス供給軒数

約80万軒

2017年9月末

再生可能エネルギー発電量/年間

2億3千万kWh

感動を、次々と。

私たちは、いつの時代も暮らしのエネルギーとなる商品、
未来を拓くチカラとなるサービスを、
より多くの人へ街へ、届け続けます。



ミツウロコグループの事業領域



エネルギー事業

LPガス、石油、新エネルギー機器等の販売、
物流サービス



電力事業

風力発電、バイオマス発電、メガソーラー発電、
小売電気事業での電気販売



フード&プロビジョンズ事業

清涼飲料水製造・販売、飲食店や施設内
売店・カフェテリアの運営、プレミアムバー
ガーレストラン、ボランティア・チェーンストア
の経営等



PM / 健康・スポーツ事業

オフィスビル、マンション等の賃貸、複合商業
施設の経営



その他事業

一般事務用機器等のリース、料金収納代行、
システム開発、各種保険の取り扱い等



長期的な視点で成長領域への

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済情勢は、政府の経済政策や日銀の金融緩和策を背景に、雇用、所得環境や企業収益に改善傾向が見られるなど緩やかな回復基調が継続いたしました。一方、海外ではアメリカの新政権による金融政策や北朝鮮による地政学リスクが世界経済に与える影響など、景気動向は依然として不透明な状況で推移いたしました。

当社グループを取り巻く経営環境におきましては、IoTやAIといった技術革新を活用した新サービスや、グローバル市場、自由化による新たな国内市場など、成長への新たな市場ポテンシャルも存在する一方で、節電の定着も含めた国内需要の停滞、加えて電力・ガス自由化等の流れにより、競争が激化し、小売市場において消費者の選択志向が強まるなど、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような状況下、LPガスお客様向け駆けつけサービス「ミツウロコあんしんバリュー」やミツウロコでんき需要家向けサービス「ミツウロコでんき安心サポート」の展開など、お客様に

積極投資を行い、一回り大きな企業グループへの変革を目指します

安心・安全・快適なサービスを提供して参りました。加えて、新たに液石法(液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律)の改正に則り、料金透明化に向けてLPガス販売管理システム「COSMOSシリーズ」の拡販を行っております。

また、エネルギー事業における生産性改善の取り組みの一つとして、日本電気株式会社ならびに京セラコミュニケーションシステム株式会社と共同で、新無線通信技術「SIGFOX」によるIoT・AIを活用した配送業務効率化ソリューションを開発いたしました。今後、実証試験等を経て実用化すれば、物流費用の大幅な削減に大きく貢献する可能性があります。

さらに、フード&プロビジョンズ事業では、2017年4月より、ハンドメイドベーカリーの「麻布十番モンタポー」や本格喫茶の「元町珈琲」、両ブランドのノウハウを踏襲した新ブランド「モトマチ コーヒーアンドブレッド」を運営する株式会社スイートスタイルが当社グループに加わりました。

当第2四半期連結累計期間については、石油製品全般に

おいて原油価格の上昇による影響を受けた一方で、様々な業務コスト削減策の取り組みと、エネルギー事業の拡大を図るため新規顧客の獲得や各事業での積極的な展開に努めた結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比2.8%増の921億24百万円、営業利益は前年同期比5.8%減の7億96百万円、経常利益は前年同期比0.0%増の13億12百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比3.8%減の8億40百万円となりました。

当社グループは、今後も顧客や社会のニーズと変化をいち早く汲み取り、長期的な視点で成長領域への積極投資を行い、一回り大きな企業グループへの変革を目指し、「豊かなくらしのにないて」として、お客様に新しい価値を提供して参ります。

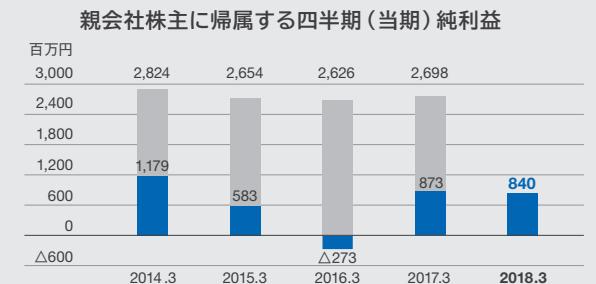
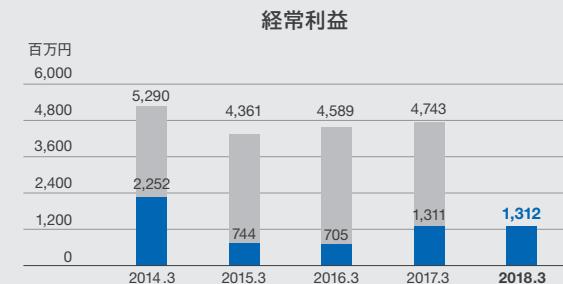
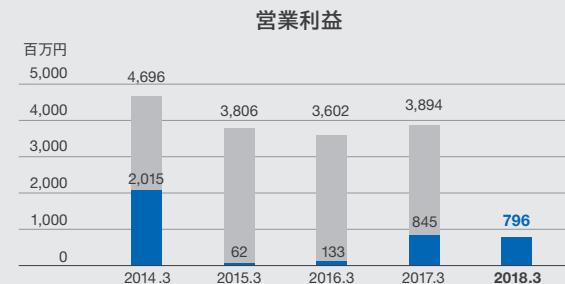
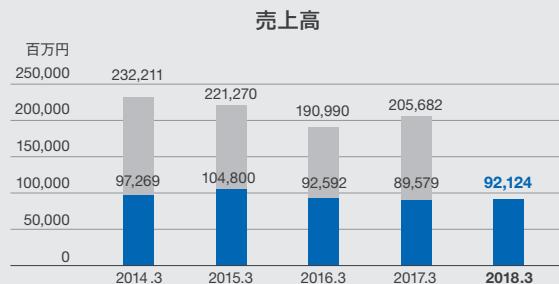
株主の皆様におかれましては、当社グループの経営活動にご理解をいただき、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 グループ CEO

田島 晃平

業績ハイライト

■上半期 ■通期



エネルギー事業

LPガス事業では、ガス+光+電気によるセット販売に加え、「ミツウロコあんしんバリュー」や「ミツウロコでんき安心サポート」の展開など、お客様への安心・安全の品質向上に努めています。

石油事業では、2017年7月よりレンタカーサービス「カークルレンタカー」を開始しています。また、ミツウロコ事務センターでは、入力業務の一部を自動化するなどの合理化策を導入し、受発注業務の生産性を大幅に向上させました。しかし、消費者の選択志向の強まりや、原油価格の上昇による影響を受け、売上高は前年同期比13.3%減の559億74百万円、営業利益は前年同期比31.5%減の3億94百万円となりました。

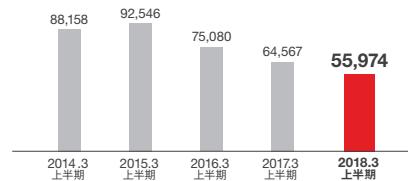
当上半期売上高

559億74百万円
前年同期比 13.3%減

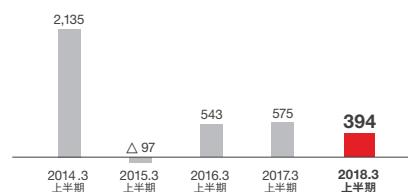
当上半期営業利益

3億94百万円
前年同期比 31.5%減

売上高推移
(百万円)



営業利益推移
(百万円)



Topics

更なる競争力強化へ組織再編

2017年10月、(株)ミツウロコの小売事業を地域ごとに分割し、(株)ミツウロコヴェッセル、(株)ミツウロコヴェッセル東北、(株)ミツウロコヴェッセル中部、(株)ミツウロコヴェッセル関西に承継いたしました。また、(株)ミツウロコヴェッセル東北、中部、関西の3社の株式を(株)ミツウロコヴェッセルが取得しました。山梨地域においては、その市場規模に鑑み、小売事業に加え卸売事業も分割し、(株)山梨ミツウロコに承継いたしました。今後、各地域で、関東、東北、中部、関西、山梨の5エリアの地域の特性に鑑みた営業戦略を実施して競争力を強化していきます。



株式会社ミツウロコヴェッセル
代表取締役社長 藤村孝明

当社は全国のお客様とお取引がありますが、お客様のニーズは地域によって様々な違いがあります。今回誕生した各地域会社は、お客様のところへ足を運び、きちんと対面することでお客様の要望に応じていきます。私たちは、お客様の「豊かな暮らしにないて」として、絆を大切に「信頼され、愛される企業」を目指して参ります。

各社社長からのごあいさつ



株式会社ミツウロコヴェッセル東北
代表取締役社長 竹田 繁人

総合エネルギー企業として、クリーンで安心・安全なエネルギーを供給することはもとより、東北エリアの特性に合ったサービスや商品を開発し、付加価値のある充実したサービスを提供することで「お客様に選ばれ、お客様に必要とされる企業」を目指して参ります。



株式会社ミツウロコヴェッセル中部
代表取締役社長 岸 秀樹

中部エリアに進出したのは昭和5年と歴史が古く、ミツウロコの名前は皆様に広く周知いただいておりますが、当社が様々なサービスを提供していることは浸透していません。まずは当社が、ガスや電気、安心バリューといった多様なサービスを提供していることを知っていただき、トータルサービスでミツウロコを選んでいただけるよう努力していきます。



株式会社ミツウロコヴェッセル関西
代表取締役社長 池田 貞彦

関西エリアでは、ミツウロコの認知度はまだ高いとはいえませんが、お客様と触れ合うことを大切に、ミツウロコが何を取り扱っているか知っていただけるような地域戦略を1歩ずつ確実に実施していきます。ミツウロコのファンになっていただけるよう、お客様が何でも相談できる明るい元気な会社を目指します。

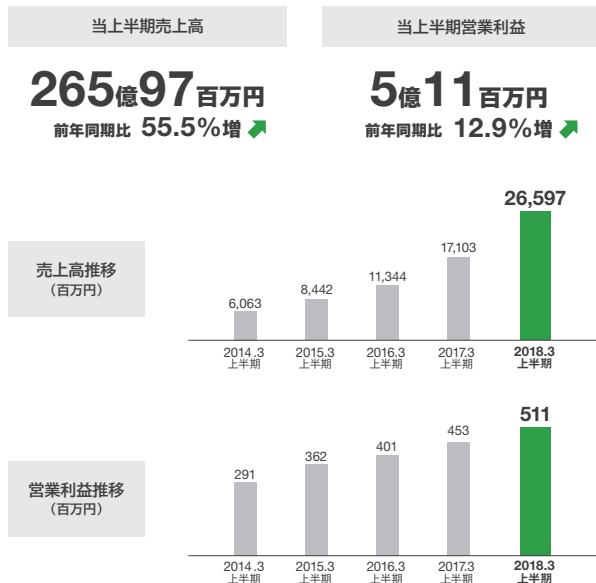


株式会社山梨ミツウロコ
代表取締役社長 大山宏史

山梨県で、ミツウロコブランドは広く認知されておりますが、まだまだ伸びしろがあります。お客様にとって魅力のあるサービスを提供し、自然とお客様から「ミツウロコから買いたい」とお声がかかってシェアが増えていく、それによりさらに良いサービスが提供できるようになる、そのような関係が生まれる会社を目指して参ります。

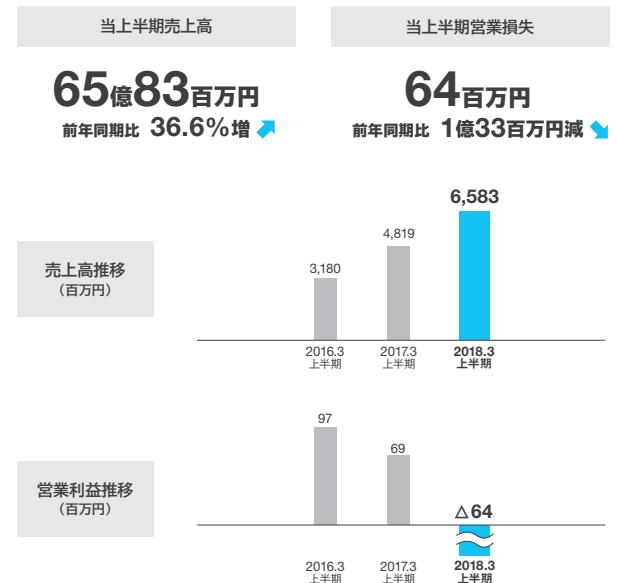
電力事業

小売電気事業では、2016年4月よりスタートした電力の小売全面自由化に伴い、家庭用電力サービスの提供を開始し、本年度より新たに中国エリア、北海道エリア、北陸エリアにおいても電力サービスのエリアを拡大し、販売拡大に努めました。また、従前の高圧電力販売の需要も、低廉な電力への注目度の高まりから増加しました。その結果、売上高は前年同期比55.5%増の265億97百万円、営業利益は前年同期比12.9%増の5億11百万円となりました。



フード&プロビジョンズ事業

2017年4月に3号店となる「カールスジュニア自由が丘レストラン」をオープンしたことに加え、ハンドメイドベーカリーの「麻布十番モンタボー」や本格喫茶の「元町珈琲」、両ブランドのノウハウを踏襲した新ブランド「モトマチ コーヒーアンドブレッド」を運営する株式会社スイートスタイルが当社グループに加わり、更なる事業の拡大をしました。飲料水事業では、引き続き販路拡大により販売量増加を図っております。これらにより、売上高は前年同期比36.6%増の65億83百万円、営業損失は前年同期比1億33百万円悪化の64百万円の営業損失（前年同期は69百万円の営業利益）となりました。

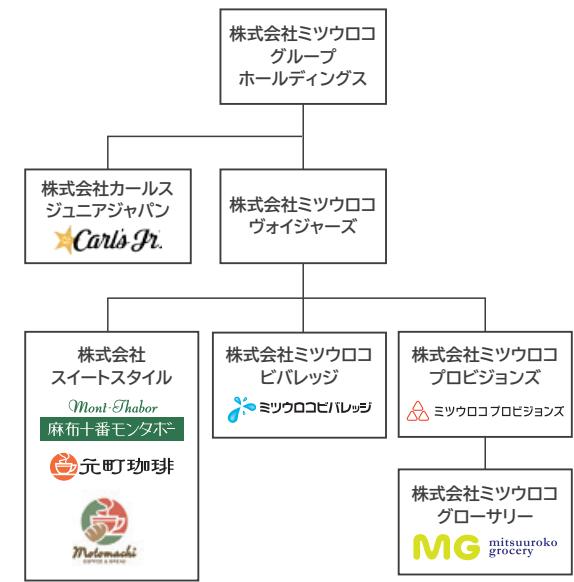


Topics

1 子会社設立と事業組織再編

フード&プロビジョンズ事業では、2017年10月1日に株式会社ミツウロコヴォイジャーズを設立しました。ミツウロコヴォイジャーズにミツウロコプロビジョンズ、ミツウロコビバレッジ、スイートスタイル各社の株式を譲渡し、ミツウロコヴォイジャーズがフード&プロビジョンズ事業の統合的な管理を行い、拡大していく事業を効果的に経営していきます。

フード & プロビジョンズ事業の体制



2 新ブランド1号店OPEN

MG1号店 桑名木曾三川公園店
2017年10月6日オープン

MG(Mitsuuroko Grocery)ブランドは「地域に根ざした“手づくり”のお店」をコンセプトとした「食」に特化したお店です。



Motomachi Coffee & Bread 愛知扶桑店
2017年7月15日オープン

「麻布十番モンタボー」と「元町珈琲」のマリアージュ！
新業態のFC店舗です。



PM/健康・スポーツ事業

健康・スポーツ事業では、オープン9年目を迎える横浜駅西口複合商業施設「HAMABOWL EAS(ハマボールイース)」において、各種キャンペーンを開催し、温浴施設「SPA EAS(スパイース)」及び、ボウリング場「Hamabowl(ハマボール)」にて、更なるおもてなし品質向上に努め、Web集客にも注力しました。また、PM(不動産賃貸)事業では、入居率向上を目指し、リノベーション等の施策を積極的に推進した一方で、昨年度に賃貸用不動産の入替を行ったことにより、不動産賃貸収入は減少しました。その結果、売上高は前年同期比0.7%増の13億31百万円、営業利益は前年同期比4.1%減の2億16百万円となりました。

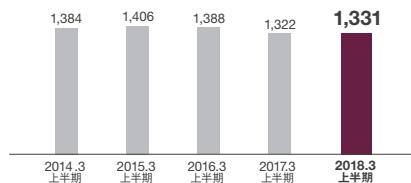
当上半期売上高

13億31百万円
前年同期比 **0.7%増** ↗

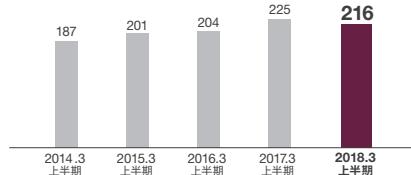
当上半期営業利益

2億16百万円
前年同期比 **4.1%減** ↘

売上高推移
(百万円)



営業利益推移
(百万円)



その他事業

リース事業における取扱高の減少等により、売上高は減少する一方で、リスク債権の減少等により貸倒引当金戻入益193百万円を計上しました。その結果、売上高は前年同期比7.3%減の16億37百万円、営業利益は前年同期比282.0%増の2億57百万円となりました。

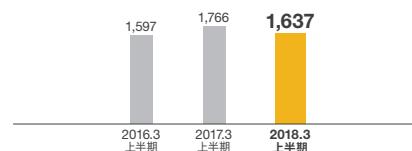
当上半期売上高

16億37百万円
前年同期比 **7.3%減** ↘

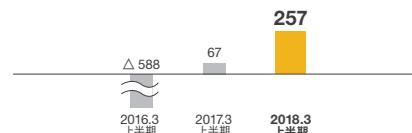
当上半期営業利益

2億57百万円
前年同期比 **282.0%増** ↗

売上高推移
(百万円)



営業利益推移
(百万円)



※2017年3月期より「その他事業」につきましては、フード&プロビジョンス事業の拡大に鑑み、経営区分の見直しを行い、「フード&プロビジョンス事業」「その他事業」に報告セグメントを変更しております。

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 2016年4月1日から 2016年9月30日まで
売上高	92,124	89,579
売上原価	77,442	75,529
売上総利益	14,682	14,049
販売費及び一般管理費	13,886	13,204
営業利益	796	845
営業外収益	784	700
営業外費用	268	234
経常利益	1,312	1,311
特別利益	4	55
特別損失	31	75
税金等調整前四半期純利益	1,284	1,290
法人税、住民税及び事業税	579	491
法人税等調整額(△は純損失)	△133	△67
四半期純利益	838	867
非支配株主に帰属する四半期純利益 (△は純損失)	△1	△5
親会社株主に帰属する四半期純利益	840	873

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 2016年4月1日から 2016年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,013	2,988
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,936	△826
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,517	△3,160
現金及び現金同等物の四半期末残高	35,597	36,151

当第2四半期のポイント

- ① 電力事業の家庭用電力サービスの提供エリアの拡大及び高圧電力販売の需要増加、フード&プロビジョンス事業の更なる事業拡大により売上高が増加したものの、事業拡大に伴う人件費等の増加により販売費及び一般管理費が増加し、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比で3千万円減少しました。
- ② キャッシュ・フローの状況は売上債権の減少等により営業活動でプラス70億円、有形固定資産の取得及び子会社株式の取得等により投資活動でマイナス19億円、長期借入金の返済及び配当金の支払い等により財務活動でマイナス45億円となりました。
- ③ 総資産は受取手形及び売掛金の減少等により前年度末比10億円の減少、負債は長期借入金の減少等により前年度末比10億円の減少、純資産は自己株式の取得等による減少があった一方で、その他有価証券評価差額金の増加により、前年度末比8百万円の減少となりました。

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 2017年9月30日現在	前連結会計年度 2017年3月31日現在
資産の部		
流動資産	62,129	65,304
固定資産	68,310	66,205
有形固定資産	34,483	34,761
無形固定資産	4,230	3,229
投資その他の資産	29,596	28,214
繰延資産	34	27
資産合計	130,474	131,537
負債の部		
流動負債	31,242	29,388
固定負債	24,741	27,667
負債合計	55,983	57,055
純資産の部		
株主資本	67,226	67,966
その他の包括利益累計額	6,959	6,165
非支配株主持分	304	350
純資産合計	74,490	74,482
負債純資産合計	130,474	131,537



新取締役 ゴウミン氏インタビュー

世界で強みを発揮する ミツウロコグループへ

取締役 グループ CTO
グローバルプランニングチームリーダー / 海外事業担当
ゴウミン

海外事業展開のための ネットワークづくりを開始

7月に取締役CTOに就任したゴウミンです。シンガポールから日本の大学に留学し、卒業後はシンガポール政府で、シンガポール企業による外国への投資のサポート、ASEAN・日本間の貿易促進などに携わってきました。ここでシンガポールや日本をはじめアジア各国の政府機関や民間企業との人脈を拡げ、また大学で学んだ工学の知識を活用して投資案件や市場の分析力を磨きました。

今後の海外展開にあたっては、ミツウロコ独自の強みを分析してそれを活かせる国や市場を見極めること、ならびに国際化に対応した体制と人脈の構築が欠かせません。就任後、

まずはミツウロコグループ各社の本社や各拠点ならびに施設を訪問し、ミツウロコグループの成り立ちや強みを学びました。同時に、前職で得た諸外国の様々な業界とのネットワークを活かし、ミツウロコのネットワークの国際化を推進させるべく日々活動しています。

顧客ネットワークの強みを 海外でも活かしていく

これまでで見てきたミツウロコの強みは、90年以上の歴史によって培われた顧客ネットワークのシステムだと考えています。全国約1,800社で構成される「全国ミツウロコ会」の代理店ネットワークと、その先のLPガス供給先約80万

世帯のお客様との接点を維持・強化し、ガス、電力、飲食など様々な商材を提供していくBtoB/BtoCでの事業ノウハウの優位性は高く、また法規制が厳しい日本における安全管理や保安の技術も強みです。

海外への事業展開については、文化の違いや市場環境を分析して、ミツウロコグループの強みが活かせる地域へ展開していくことになります。アジア地域は魅力的な地域であり選択肢の一つです。進出手段については様々な方法がありますが、リスクマネジメントを意識しながらミツウロコグループにとって最適な方法で確実にステップを踏んでいくことが必要です。

海外での知名度を上げるためのブランディングも並行して行っています。今後新設する英語版ウェブサイトを通じ、国内外へミツウロコグループの情報を発信していきます。



海外でも独自の強みを発揮する ミツウロコグループへと体制を整備する

現在の世界の潮流として、デジタル化 (Digitalization)、規制緩和 (Deregulation)、脱炭素化 (Decarbonization)、分散化 (Decentralization) の、「4D」への対応が重要視されており、ミツウロコグループの海外展開推進とも連動させていきます。「デジタル化」に関しては、グローバル展開を視野に入れながら、最新技術を取り入れてグループ全体のITインフラを更に進化させ、生産性を高めたいと考えています。「規制緩和」については、例えば、今後は日本に続いてアジア各国でもエネルギー自由化が進んでいく見通しであり、ミツウロコグループの持っているノウハウを展開することができます。当社はLPガスが主力であり、再生エネルギーによる発電も早くから行っておりますため、「脱炭素化」とは従来から親和性が高く、国際的にも高く評価されている分野です。「分散化」については、例えば電力事業では、多くの島々からなる国の場合、大規模な発電所を建設してそれぞれの島に送電するよりも、小型の発電装置を島々に直接設置して送電するシステムが適しており、これは地域を基盤とした顧客ネットワークシステムというミツウロコグループの独自の強みが活かせる分野です。

今後、海外への事業展開へ向けてミツウロコグループへグローバルスタンダードを導入し、海外市場においても、日本国内同様にミツウロコの存在感と独自の強みをアピールしていきたいと考えています。会社が一段と大きく、新しく生まれ変わろうとしている今、その一員として働くことにワクワクしています。

会社概要・株式の状況

会社概要	
社名	株式会社ミツウロコグループホールディングス
英文社名	Mitsuuroko Group Holdings Co., Ltd.
主な事業内容	持株会社（グループの経営戦略・経営管理）
本社所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目1番1号
創立年月日	1926年（大正15年）5月10日
資本金	70億77百万円
従業員数	40名／連結：1,846名（2017年9月30日現在）

役員		(2017年9月30日現在)	
代表取締役社長	グループCEO	田島 晃 平	
代表取締役	グループCFO	渡邊 雅 人	
取締役		二見 敦	
取締役		児島 和 洋	
取締役		川上 順	
取締役		大森 基 靖	
取締役	グループCTO	ゴ ウィミン	
取締役（社外）		柳澤 勝 久	
取締役（社外）		松井 香	
監査等委員である取締役		田島 謙	
監査等委員である取締役（社外）		山田 勝 重	
監査等委員である取締役（社外）		菅原 英 雄	

株式の状況		(2017年9月30日現在)	
発行可能株式総数		197,735,000株	
発行済株式の総数		68,137,308株	
株主数		4,123名	

上位株主				(2017年9月30日現在)	
株主名	持株数(株)	持株比率(%)			
明治安田生命保険相互会社	5,544,000	8.14			
JXTGホールディングス	5,064,040	7.43			
田島株式会社	4,327,000	6.35			
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,681,173	5.40			
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口	3,112,300	4.57			
リンナイ株式会社	2,682,464	3.94			
全国ミツウロコ会持株会	2,103,784	3.09			
橋本産業株式会社	2,032,900	2.98			
株式会社パロマ	1,685,124	2.47			
株式会社三井住友銀行	1,676,331	2.46			

当社は自己株式を5,804,290株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

分布状況			(2017年9月30日現在)	
所有者別の株式分布状況				
①個人・その他	10,952,485株	16.07%		
②金融機関	21,166,904株	31.07%		
③その他国内法人	27,853,334株	40.88%		
④外国法人等	2,078,828株	3.05%		
⑤金融商品取引業者	281,467株	0.41%		
⑥自己名義株式	5,804,290株	8.52%		
所有株数別の株主分布状況				
①～499株	1,881名	45.62%		
②500～999株	162名	3.93%		
③1,000～4,999株	1,618名	39.24%		
④5,000～9,999株	209名	5.07%		
⑤10,000～49,999株	171名	4.15%		
⑥50,000～99,999株	18名	0.44%		
⑦100,000株～	63名	1.53%		
※自己株式を除いて算出しております。				

株主メモ	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 剰余金の配当 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告により、当社ホームページ (http://www.mitsuuroko.com/) に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

郵便物送付先・お問い合わせ先		
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部	
お問い合わせ先	フリーダイヤル 0120-288-324（未払配当金の受領など）	
ご注意	住所変更、単元未満株式の買取及び買増請求等のお申し出先につきましては、株主様が口座をお持ちの証券会社にお申し出ください。 ただし、株券電子化に際して、株券を証券会社の口座に入庫しなかった等の理由により、特別口座において管理されている株式の場合は、特別口座管理機関であるみずほ信託銀行が住所変更等のお申し出先となります。	
	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社等になります。	フリーダイヤル 0120-288-324（土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
各種手続お取扱店 （住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店、全国各支店及び営業所 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行 本店及び全国各支店、みずほ銀行 本店及び全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります。）	
ご注意	支払明細発行については、右の「証券会社等に口座をお持ちでない場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。 証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。